

参加
無料

公開
セミナー

入試
相談会

10/ 3 SAT 13:00 ~ 16:30



西宮上ヶ原キャンパス
G号館 IS-206/IS-208教室

プログラム

13:00~14:20

本研究科教員による講演

大学院言語コミュニケーション
文化研究科の教員による講演会

14:30~16:30

研究科説明会&入試相談会

研究科概要紹介と院生による研究科
紹介、教員や院生との個別相談、
入試要項の配布など

関西学院大学大学院
言語コミュニケーション文化研究科

西宮市上ヶ原一番町1-155

TEL:0798-54-6180

MAIL:genkomi@kwansei.ac.jp

お問い合わせ



公開セミナー&入試相談会

2026年10月3日(土) 13:00~14:20 公開セミナー
14:30~16:30 入試相談会

@ 西宮上ヶ原キャンパス
G号館 IS-206/IS-208教室

お申込み
9月30日(水)まで



公開セミナー

目的語が目的語になれない現象から探る文構造

言語表現には音韻、語の形態、意味等の側面がありますが、それぞれが形式的・数学的な道具で分析できる興味深いシステムです。生成文法と呼ばれる言語研究の枠組みでは、言語表現の分析を通して人間言語の生物学的基盤を探ろうとしています。本講演では、その一例として文の形（統語論）に関する現象をいくつか紹介し、その分析が上記の試みにどう貢献するのかをお話しします。

動詞が目的語を伴って文を形成することは非常に一般的なことと言えます。一方で、典型的には目的語として現れるはずの要素が、（多くの言語の受動文や能格言語の他動詞文のように）別の姿をして現れたり、（形式主語thereを用いた英語の文のように）そもそも現れることを禁じられたりする現象もまた、広く見られます。このような「目的語が素直に目的語になれない現象」を、格と移動に関する独自の仮説から統一的に捉えることを目指します。

たなか ひろゆき

講師：田中 裕幸 言語コミュニケーション文化研究科・教授

専門分野は理論言語学における統語論。格・一致・移動の現象から節構造と統語演算の性質について何が言えるかという問題に関心を持つ。近年は対格付与子が外項より高い位置に基底生成されるとする仮説から能格性や他動性制約を導くことを試みている。

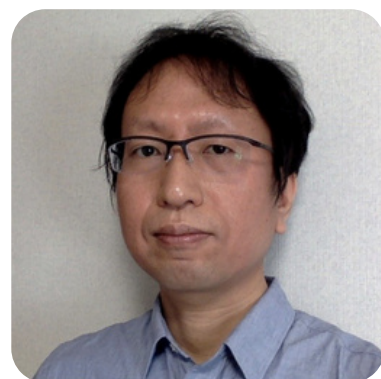
<主な刊行物>

「OCACCS仮説に基づく英語虚辞構文の分析」(『商学論究』70巻4号、2023年)

“Ergativity as a Natural Manifestation of the v > EA Base” (*Proceedings of the Linguistic Society of America* 7巻1号、2022年)

“On the Minimality of Generalized Pied-Piping” (*Lingua* 114巻7号、2004年)

“The ‘Avoid Embedding’ Condition and the Checker/Checkee Asymmetry” (*English Linguistics* 15巻、1998年)



入試相談会

- 全体説明（研究科概要説明、奨学金・入試制度説明、院生による研究科紹介）
- 個別相談会（教員や院生、事務局との個別相談）

全体説明の後は、個別相談ブースにて、本研究科の教員や在学生とじっくりとお話いただけます。

「大学院に進学するか就職するか迷っている」「そもそも大学院ではどんな風に学ぶのか？」

「自分が関心のあるテーマは言コミで研究できるのか？」このような些細なご相談もお気軽にお待ちしております。